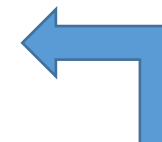


事業者向けアンケート調査結果報告書（自由記述欄）

「事業類型」における略称について

- B型→就労継続支援 B 型 ●放デイ→放課後等デイサービス ● G H→グループホーム ●移行支援→就労移行支援
- 特定相談→特定相談支援事業所 ●地活→地域活動支援センター ●生活介護→生活介護 ●日中一時→日中一時支援
- 居宅介護→居宅介護 ●児発→児童発達支援



問 3 - 1、 2、 3 （ 2 ） その他の課題	事業類型
作成した自主商品を茅ヶ崎市役所本館1階ホールで販売する機会をいただけていない。	B 型
茅ヶ崎市の提供する作業を公平に各事業所へ分配して欲しい	B 型
引継ぎ事項の徹底	放デイ
洗剤やトイレトペーパーの使い過ぎ いくら言っても問題行動が直らない	G H
報酬単価が低い	特定相談
マンパワー不足	特定相談

問 3 - 1、 2、 3 （ 3 ） （ 1 ） で選択した課題に対する意見や取り組まれていることがあれば教えてください	事業類型
養護学校や相談支援事業所と積極的に連携し、利用者の確保に努めている。利用者にとって満足してもらえるサービスを提供する一方で、職員にとっても働きやすい環境を整えなければ、利用者の確保と人材の定着は難しい。	移行支援
報酬額が低い⇒就職者支援に力を入れています。 利用者の確保⇒他の就Bとの差別化を図ることと、利用者の満足度を上げる努力をしています。 その他⇒現在、茅ヶ崎市障がい福祉課の大八木様へ配慮いただけるようにご依頼申し上げております。	B 型
職員研修への参加	B 型
利用者の確保については各事業所の特色や魅力にかかわるところが大きいですが、指定、開所から日が浅く、利用者の確保に苦慮している事業所に対して優先的に相談者へ見学を促すなどの配慮をして欲しい。指定開所から現在に至るまで公的機関からの支援は皆無でした。	B 型
派遣、紹介業者への依頼、タイムカードのデジタル化	生活介護

職員が高齢化しているが、機織りという特殊な技術が必要なため、誰でもできる作業ではないので、今後の活動内容の検討が必要。欠員が多いため、相談事業所と連携し補充していく。	生活介護
求人活動にお金をかけているが費用対効果が得られない。	生活介護
ニーズの多様化で他機関との連携が必要だが受け取っていただく機関が乏しい。	生活介護
利用者の障害が多様化している部分はなるべくいろいろな研修に参加している。困難ケースへの対応は医療関係、他事業所など情報共有して対応しているようにしている。	地活
報酬体系、制度について事業所連絡会内で協議をし、保護者の協力を得て議会の陳情を行い報酬改定等の決定に至った	日中一時
職員の応募がない。放デイに比べると経営は厳しい。日中一時は知名度が低く集まらない傾向がある。看護師の確保は難しい。	日中一時
計画相談では報酬があるが、基本相談や利用調整の仲介などには報酬が無く、やればやるだけ資金不足になってしまう	日中一時
人材のスキルアップ：年に一回試験を行い療育のスキルアップを行っています。 利用者の確保、利用者の増加、地域住民との関係づくり、ネットワークづくり：各事業所へ訪問し空き状況のお知らせや事業所の説明をおこなっています。	児発
児童発達支援管理責任者として勤務できるようになるまでがあまりにも時間がかかり過ぎです。以前ほど簡単にすることには反対ですが、目指す側にも雇う側にも現状はあまりにも遠いです。	児発
産休や働き方の多様性に柔軟に対応しているが、女性職員が多数を占める職場であるがゆえ、家庭の状況で勤務が左右され易く調整に難儀する場合がある	放デイ
朝礼時におさらい。引継ぎノートの確認。	放デイ
困難なケースの場合相談事業所や保護者との連携、信頼関係を大切に時間をかけじっくり話解決へ子供の将来を大事に取り組んでいる。地域での療育が限界の場合は専門機関へ委ねることを重視している。が考え方はいろいろで評価もいろいろです。落ち着いている。とよく表現され集中療育を拒むケースがあるが「落ち着いている」とは何を指して落ち着いていると言っているのか、グレーな表現をはっきり見極め指導助言してくれる機関が欲しい。	放デイ
毎月、管理者と1オン1でのミーティング。研修機会の提供。相談支援事業者や学校との協力体制。	放デイ
産休や働き方の多様性に柔軟に対応しているが、女性職員が多数を占める職場であるがゆえ、家庭の状況で勤務が左右され易く調整に難儀する場合がある	放デイ
卒業生同士の交流会の実施。	放デイ
「人は宝」を大事にしている。福利厚生以外でも職員に対しては楽しい職場になるよう常に務めている。	放デイ

報酬が低すぎて話にならない。単独ではやっていけない。	放デイ
手入力作業が多い。	放デイ
研修やケア会議、関係機関や専門家への相談。	G H
人材確保については、会社全体で面採用を行いカバーしている。 利用者の確保も同様。医療的ケアは職員配置上困難。困難ケースは他事業所との連携で対応。	G H
トイレットペーパー使い過ぎは本人に購入してもらう 洗剤は今のところ悩んでいる 問題行動が直らない	G H
計画対象者に対して相談員の数がそもそも足りていない。法人内研修、外部研修、所内会議において研修を実施しているが、日々の業務に追われしっかり研鑽を積むことが難しい。	特定相談
事業所の人員（相談支援専門員）を増やすことが容易でない。他の事業所と連携をしたいが運営法人の違いなどあって簡単なことではない。日々の業務に追われる中で新たな取り組みにまでは手が回らない。どのように事業を展開するかを考えるよりも事業を閉じることを考えたいというのが現実である。	特定相談

問4-1 障がいのある方の情報の取得及び利用について円滑に意思疎通を図るために取り組んでいること（問4で「その他」を選択）	事業類型
iPadを活用して視覚による情報提供	G H
信頼関係を作り話しやすい環境づくり	地活
利用者各々のハンドサインを用いている	放デイ
環境づくり	日中一時
利用者のニーズを聞き取るためのシートを用意している。	特定相談
文書には、原則ふりがなをつけている。	B型

問6 利用者と一緒に外出した際に、ありがたいと感じた出来事や残念と感じた出来事	
●ありがたいと感じたこと	事業類型
近隣の方々が笑顔で挨拶を交わして下さったり、声をかけていただける事が、当たり前嬉しい	放デイ
現在の施設の近隣の方々が、「気になる事はないので、子どもたちを頑張ってみてください」と言ってくれる。	放デイ
施設外作業の際、「いつもありがとう」と声を掛けてもらった。	移行支援
近隣のスーパーなどに利用者と買い物に行く際、店員の方が親切に対応してくれること。	児発

近隣の方が事業者の参加するイベントに協力していただいたこと。	児発
公園で子どもたちがブランコを譲ってくれたこと。	放デイ
電車で席を譲ってもらえた。	地活
コロナ前から・・・外食支援時に徹底してる事は行った時より綺麗にして帰る。ごみは持ち帰る。利用者が触れたところは全てアルコール消毒して帰る。でした。ある飲食店に外食支援外出した日「いつも綺麗にしてくださり、ありがとうございます」と言われました。	放デイ
歩行器や車いすで歩いているときに道を譲ってくれた	居宅介護
どこの公共施設（特にこどもの家）でも親切にしている。	放デイ
コミュニティセンターなどで知的・発達障がいの方に対して、ゆるやかなルールで対応していただいた	日中一時
飲食店でメニューを決める際に「ゆっくりで良いですよ」と声かけをいただいた。車椅子が通りやすいように、机の移動を自発的に行ってくれた。	特定相談
日ごろから散歩をしているが、自分から誰にでも挨拶する利用者に対し、自然とあいさつを返してくださる方がいること。	生活介護
食事に行ったお店で車いすの場所確保をすぐしてくれる	地活
医療機関で、知的障がいのある方に丁寧で分かりやすい説明、さりげない気遣いをしていただくことが多い。	特定相談
利用者さんの買い物の支払いでお釣りを確認し財布へ店員が入れていただいた。	生活介護

●残念に感じたこと	事業類型
公共交通機関の運転手で非常にぞんざいな言動をうけたことがあること。	G H
施設の近隣の方から、「自分はボランティア等をしているが、実際自分の住んでいる家の目の前に施設を設置されるのは嫌」と言われた	放デイ
施設外作業の際、「変なやつらが除草してると思ったよ」と言われた	移行支援
発達障害の方、ある程度言語のコミュニケーションをはかれる方の独語や、奇声などに奇異の目で見られる	生活介護
施設物件を探す時、賃借できそうなところまで行っても障害児者の施設とのことで大家さんから断られるなど物件の賃借が困難。	放デイ
バス降車の際に、落とし物をして探すのに時間がかかってしまった。運転手に声をかけたところ、舌打ちをされ感じの悪い対応をされた。	特定相談
マスクの着用義務により、入館を断られた。	日中一時

団体で歩いているとジロジロみられる場合がある	地活
成人している知的障がい者に対し子供扱いともとれる残念な対応もある。	特定相談
●その他	事業類型
外出時、近隣において、残念と感じた事はない。	放デイ
今まで特になかったです。精神の方は、外見では分かりにくいのかもしれませんが。	B 型

問 7 - 1 人材確保対策で行っていること	事業類型
プリセプターを配置し、育成計画を他の職員と共に相談しながら進めている	放デイ
研修 実習	G H
朝礼を行いメンバーの対応をその都度共有する	地活
新人研修の実施、地域へのイベントへの参加	生活介護
常勤・非常勤関係なく意見が出せるようにしている。 職員同士のコミュニケーションと「ありがとう」の言葉をお互いに取り合うことを意識している。 職員間での情報共有に努めている。	放デイ
職員を褒める！！	放デイ
本部よりHPに採用情報の掲載をしたり求人をだしていただいています。	児発
求人をかけても入職者がいない	居宅介護
ホームページやハローワーク	G H
県内において複数の事業所を運営しているため、面採用や職員異動にて対応。	G H
神奈川県、茅ヶ崎市等の主催する無料セミナー、研修会に積極的に社員を参加させている。また、自社内にてE-Learning導入して自主的に学ぶ環境を構築しています。	B 型
法改正により、教員免許保持者や専門職が増えたが、ルール of 徹底や教育的な療育を行ってしまうことが見られる。その為障害の方たちへの根本的な理解をしてもらうため初期研修や現場で日常的に伝えている。	放デイ
職員研修	B 型
ハローワークの求人登録、口コミで広めていただく。	生活介護

OJT、外部研修、所内会議にて事例検討等	特定相談
求人を出したり、掲示している。	日中一時
報酬単価が低く雇用ができない。	特定相談
研修受講の推進等	特定相談
研修機会の提供、賃金の向上	放デイ
企業説明会やインターンや実習生受け入れ(法人として)	児発
社内コミュニケーションの促進と社内研修の実施	B 型
介護・福祉の仕事は誰にでもできる簡単な仕事と思っている人が多い。雇用した職員は問題なく支援していると思っても、利用者が不安や不快に感じることもある。逆に職員が不安や不快に感じることもある。面接だけでの採用はリスクが高いため、なるべく他の職員からの紹介で採用している。職員数は確保できても、サービスの質を維持するには、繰り返しの研修が必要。	移行支援

問 7 - 3 職員の人材育成について事業所において行っている研修等（問 7 - 2 で「その他」を選択）	事業類型
事業所で契約しているWEB研修と職員がそれぞれ担当した研修を実施している	放デイ
e-learningを導入し、個々人で取り組んでもらう	B 型
療育監修の心理師による事業所独自の研修	児発
ラインワークスの活用	G H
他事業所への見学	放デイ
オンライン研修の活用	日中一時
事業所内の試験が年に1回あります。	児発
社内e-learningを導入し、職員の時間のある時に自由に取り組めるようにしている	児発

問 8 - 1 災害時に事業所としてどこまで協力が可能と考えているか（問 8 で「その他」を選択）	事業類型
自事業所の障害者の方の生命と安全の確保で手一杯になるために余力はないだろうと思われる。	G H
法人として災害ボランティアセンターの設置、運営を実施予定。	特定相談
可能な限り協力していくが、無償での地域貢献には限界がある。	移行支援

問 1 0 障がい福祉施策や障害福祉サービス全般についての意見	事業類型
医療依存度の高い子どもたちへの支援が少しずつできてきているものの、動く医療的ケア児に対応するショートや幼稚園・保育園・通常級への支援が不足している。同時に支援する人材の確保や育成など（特に看護職）も課題。看護師が配置されている時間のみ利用可など、必ずしも利用者ニーズにそぐわない状況があるのでは。事業所の経営維持（＝職員の生活も守る必要があり）との兼ね合いなどもあり課題。また、医療的ケア児等コーディネーターの役割、行政との関わりにおいては地域課題をどうやって吸い上げていくのか、そのツールなどもまだまだ脆弱さがある。	放デイ
ここに書いて良いのか分からないのですが。 shoufukuのメールに鍵をつける意味があるのでしょうか。 沢山入るメールのどのメールに対するパスワードなのか、それを把握するだけでも時間がかかります。 鍵が付いているだけで見る気が失せてしまうのは私だけでしょうか。 何かメールでのトラブルがあったからなのか、と思いますが。 いくつかの事業所を兼務しているので、三倍のメールが届き、PWを貼るまでに時間をとられ、最悪 開けられずに終わる事もあります。 愚痴で申し訳ありません。ずっと気になっていた事でした。	B 型
他市の話を聞かせていただく機会があり、茅ヶ崎市で事業ができる事をありがたく感じる一方、少人数の職員での対応には限りがあり予算不足を痛感する	地活
就学後の児の発達の偏りの有無や障がい福祉分野の支援の必要性を見立てる部署（心理士配置）が市の中に設置されると良いと思います。もしくはこどもセンターを機能強化して就学後（小6くらいまで）の見立ても行えるようになると良いように思います。それも難しい場合は市教育センター青少年相談室と障がい福祉課が連携して、就学後の児に対し障がい福祉的な支援の必要性を見立てるような仕組みが作れると良いと思います。	児相談
総合相談窓口の一元化。どこにどのように相談すればよいかわからないという声がまだまだあります。または相談したがたらいまわしで「どこも動いてくれない」という声もあります。予防的な相談、支援はどこも受けてくれないとの声もありました。	日中一時
現状では、グループホーム利用者は日中一時支援事業が利用できないが、ホーム利用者ほど利用ニーズが高いと感じる。事業所終了後、一人で出かけることが難しいため、安心して過ごせる場所がホーム以外にも必要と感じる。	生活介護
ちがさき障がい者支援アプリの事業所一覧の順番を定期的に入れ変えていただきたい。日中一時は知名度が低い上に、事業所一覧で下の方になっているため。	日中一時

居宅介護の支給決定基準が近隣市町村より少なく、不利益を被っている利用者がいます。また基準が公表されておらず分かりにくいです。 通学や通勤の送迎サービスがなく苦慮している利用者がいます。	特定相談
これ以上、報酬単価を下げられたり、加算単位を下げられると、今後の運営や事業の展開が難しくなる。 資格者の経験年数や日数等、縛りが多すぎる。 簡潔にしてほしい。資格を取っても2年間のojtや、更新等、後付けでルールを作るのはいかなものかと思います。 様々な連携を取るにも、無償で対応しなければならないため、連携の為の加算や、報酬を加えて欲しい。特にケース会は、毎月どこかしらで行われるので、なんとか検討してもらいたい。 事務作業を簡略化してほしい。 残す書類が多過ぎて、保管する場所の確保も大変。 法律なので、全国で統一のルールにしなければならないのは分かるが、ある程度、市町村区の裁量を大きくしてもいいと思う。 現状、各場所でのやり方やルールが曖昧過ぎて、覚えきれない。市町村区のページを見れば分かるような仕組みを作って欲しい。 まだまだ、潜在的なニーズはあっても、対応できる事業所が限られているため、もっと人にお金をかけられるような仕組みをお願いしたい。 人が育てば、受け入れのキャパも広がり、ニーズを捉える事も可能になってくる。全てのニーズに応える必要もないかもしれないが、できる限り寄り添えるような体制を作りたいので、行政として、受給者証等の書類の手続きして終わりではなく、その後、どうなったのか。どういう変化をしたのかを見守れるような体制も必要だと思います。	放デイ
茅ヶ崎市障がい福祉課の職員様へ依頼中だが、茅ヶ崎市内の事業所連絡会に未だに加入できていない。弊社のような経験の浅い事業所にとって同じカテゴリーの事業所との情報交換の場が非常に乏しく不安感があります。	B 型
福祉人材が不足していくことで今後が心配されます。賃金や労働環境を改善していく必要があります。	生活介護